

# 令和元(2019)年度 学校評価自己評価

**重点目標1** より良い人間関係の構築を目指し、主体的で協調的な  
集団参加に必要な社会性を育成する

**重点目標2** 教職員の危険意識を高め、学校安全管理を強化する

評価基準 A:達成できた(90%以上)  
B:ある程度達成できた(80%以上)  
C:やや不十分、一部改善の余地がある(60%以上)  
D:改善が必要である(60%未満)

## 学部等①【知的障害教育部門 小学部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点目標1	・体験的な活動をと おし、自信をもって 行動する力やきまり を守り、状況に応じ て行動できる力を高 める。	・成就感が得られる課題、 場面等の設定を行うと ともに適切な賞賛をする。 児童の変容を事例検討会 やブロック会等で確認し、 指導改善を行う。	・対象児童は、自 ら取り組もうとす る行動が増えたか。自分でできる ことが増えたか。 落ち着いた態度で 集団行動ができた か。	B
重点目標2	・児童が安全で健康 的な学校生活を送る ことができるよう努 める。	・ヒヤリハット事例を、打 ち合わせ等で共有する。  ・児童に関する情報共有、 学習環境の整備、保健室 との連携、教育活動全般 における緊急時対策を十 分に行う。	・ヒヤリハット事例 を共有できたか。  ・大きな事故やけ が、病気、感染症 等を防止・予防で き、出席状況が良 好だったか。(出 席率等を参考にす る)	B

学部等②【知的障害教育部門 中学部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目標 1	・集団生活でのきまりを理解し、互いに認め合いながら、主体的に生活する力を高める。	・自ら友達に関わったり、関わりを受け入れたりすることができるよう、少人数のグループで活動したり、協力し合う場面を意図的に設定したりする。また、役割の与え方等を工夫を行う。  ・学校生活全般を通し、友達の思いや立場に気付かせるような指導、支援を行い、互いに認め合える雰囲気醸成する。	・友達とやりとりしたり協力したりしながら、意欲的に集団生活を送ることができたか。	B
重点 目標 2	・教員の危険意識を高め、学習活動における安全管理の徹底に努める。	・ヒヤリハット事例を、打合せ等で共有する。  ・各行事や学習活動に臨む際は、マニュアルの確認等を必ず行い、想定される危険に対応する。  ・特に校外に出る活動において、生徒の実態を十分把握し、担当教員を明確化して指導を行う。	・ヒヤリハット事例を共有できたか。 ・危険意識を常に持ち、指導を行うことで、安全に学習活動を行うことができたか。(危険意識に関するアンケートの結果が向上したか)	B

学部等③【知的障害教育部門 高等部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点目標 1	・職業的自立に必要な基本的及び実践的なコミュニケーション能力を高める。	・作業学習を通して、生徒個々の課題となるコミュニケーション・対人関係等に関して、職業能力評価表の活用等、指導に努め、能力の向上を図っていく。	・職業能力評価表でのコミュニケーション・対人関係面の評価において、年度当初と比べ伸長が見られたか。	C
重点目標 2	・行事に関する教員の危険意識を高め、安全を重視した運営に努める。	・ヒヤリハット事例を、打ち合わせ等で共有する。	・ヒヤリハット事例を共有できたか。	B
		・校外等における行事の計画及び実施に際し、安全に関するチェックシートの活用、改善を行う。	・安全に関するチェックシートを活用して計画立案及び実施をし、安全面の強化に努めることができたか。また、適切なチェックシートの完成に向け、検討を重ねることができたか。	B

学部等④【肢体不自由教育部門 小学部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目標 1	【重複障害学級】 ・身近な人に対する表現力を高め、落ち着いた態度で集団活動に参加する力を身に付ける。	・実態把握を定期的に行い、客観的に実態把握をし、一人一人に応じたコミュニケーション方法を身に付ける。	・児童一人一人のコミュニケーションの力が向上したか。	B
	・身近なきまりを守って行動する力を高める。	・集団での学習の機会を設定し、きまりを理解しやすいような指導を検討していく。	・きまりに従って教師と一緒に、落ち着いた態度で学習に取り組むことができたか。	
重点 目標 2	(各課程共通) ・教員の危険意識を高め、肢体不自由のある児童の学校生活における安全管理に努める。	・ヒヤリハット事例を、打合せ等で共有する。  ・日常の学校生活において、安全上留意すべき事項をリスト化し共有する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすの移乗、乗車時等介助の際の留意点</li> <li>・食事指導や動き作り等への指導の際の留意点</li> </ul>	・ヒヤリハット事例を共有できたか。  ・リストを活用して共有し、安全に介助、指導を行うことができたか。	B

学部等⑤【肢体不自由教育部門 中学部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目標 1	<p>【重複障害学級】</p> <p>・様々な人と関わる表現力を高め、良好な対人関係や集団生活を築く力を身に付ける。</p>	<p>・課程毎の集団学習において、個に応じた意思の表出を明確に表現するよう指導する。</p> <p>・様々な交流学习の中で、関わりを受け入れて表出することができるよう指導する。</p>	<p>・個に応じた表現方法で自分の気持ちを表すことができたか。</p>	B
	<p>・集団生活でのきまりを理解し、協力し合って生活する力を高める。</p>	<p>・教室内や学部全体、A中との合同学習、交流学习等の集団の場で、きまりや態度等を身に付けられるよう、指導する。</p> <p>見通しを持たせるためのスケジュールの提示や視覚的に分かりやすい教材等で指導する</p>	<p>・様々な集団学習の中で、きまりを守って、落ち着いて授業を受けることができたか。</p>	B
重点 目標 2	<p>(各課程共通)</p> <p>・教員の危険意識を高め、肢体不自由のある生徒の学校生活における安全管理に努める。</p>	<p>・ヒヤリハット事例を、打ち合わせ等で共有する。</p> <p>・日常の学校生活において、安全上留意すべき事項をリスト化し共有する。</p> <p>・車いすの移乗、乗車時等介助の際の留意点</p> <p>・食事指導や動き作り等への指導の際の留意点</p>	<p>・ヒヤリハット事例を共有できたか。</p> <p>・リストを活用して共有し、安全に介助、指導を行うことができたか。</p>	B

学部等⑥【肢体不自由教育部門 高等部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目標 1	【通常の学級】 ・豊かな人間関係に必要となる自己の能力に応じた実践的なコミュニケーション能力を高める。	・生徒の関心ある題材を多く含む現代社会、家庭総合、保健、総合的な探求の時間等の授業場面で、自己意識の確立、他者承認の意義等についての学習を深める。	・対話的な授業展開の中で自分の考えを述べることができたか。	B
	【重複障害学級】 ・集団生活、社会生活で必要となるコミュニケーション能力を高め、主体的に対人関係を築く力を身に付ける。  ・感情を調整しながら適切に行動する力を身に付ける。	・日常生活指導、生活単元学習、作業学習の中で挨拶、意見発表、相手の意見を聞く等コミュニケーション力に関わる学習場面を具体的に設定する。  ・生徒の発信の状況を教員間で共有する。	・学習したことを活かし、積極的に意思を伝えようとすることができたか。  ・どの教員にも自分なりの方法で発信することができたか。	B
重点 目標 2	(各課程共通) ・教員の危険意識を高め、肢体不自由のある生徒の学校生活における安全管理に努める。	・ヒヤリハット事例を、打合せ等で共有する。  ・日常の学校生活において、安全上留意すべき事項をリスト化し共有する。  ・車いすの移乗、乗車時等介助の際の留意点 ・食事指導や動き作り等への指導の際の留意点	・ヒヤリハット事例を共有できたか。 ・リストを活用して共有し、安全に介助、指導を行うことができたか。	B

学部等⑦【肢体不自由教育部門 訪問教育学級】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点目標1	・身近な人などとの関わりにおいて自ら発信したり応じたりする力を高める。	・実態に応じ、快(うれしい、楽しい)、不快(嫌い、嫌だ)を引き出すような働き掛けをする。  ・表情、発声による表出などに対して、声掛けなどにより即応する。	・1回の授業で各児童生徒が実態に応じた表出(感情の変化、発声、身体の動きなど)を1回以上行うことができたか。	B
重点目標2	・教職員の危険意識を高め児童生徒指導を安全に行う。	・ヒヤリハット事例を、打ち合わせ等で共有する。  ・児童生徒の体調を授業前に保護者、施設職員に聞き取りをし、確認する。  ・体調の変化が見られた場合、すぐに保護者や施設職員に伝達し対応してもらう。  ・授業後、児童生徒の様子を報告する。	・ヒヤリハット事例を共有できたか。  ・毎回の授業でこれらが行えたか。	B

学部等⑧【病弱教育部門 ひばり分教室】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目標 1	・集団の活動において役割を自覚し、主体的に参加する態度を養う。	・役割を全うすることの大切さを伝え、自ら行うことができるように支援する。  ・発達段階に応じた活動や、集団活動で役割を考える等の機会を設定する。	・役割の内容を理解し、自ら進んで活動に取り組むことができたか。  ・周囲の状況との関係の中で自分の役割を理解し、自ら進んで活動に取り組むことができたか。	A
重点 目標 2	・教員の危険意識を高め、防災計画の共有等、病棟との連携強化に努める。	・迅速なヒヤリハット事例の共有とその活用を行う。  ・病棟連絡会において、防災計画等について病棟との共有を進める。	・ヒヤリハット事例を共有できたか。  ・防災計画について病棟と共通理解が図れたか。	B

## 校務分掌部①【教務部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目標 1	・基本研修等を通し、社会性の育成に関わる指導力の一層の充実を図る。	・基本研修等(初任研、5年目研、中堅研等)における課題研究や研究授業での社会性の育成に係る取組について、計画、実践、評価する。	・研修者各々が、課題研究や研究授業における社会性の育成に関連する取組の状況について、実態把握、目標や学習活動・学習方法の設定などについて考察、評価し報告書等に整理することができたか。	B
重点 目標 2	・修学旅行における危機管理意識を高める。(主幹教諭・修学旅行検討会と連携)	・修学旅行実施における危機管理対応について共通理解を図り、それらを踏まえた計画の作成及び、実施状況に関する評価を行う(修学旅行検討会にて)。これらを通し、課題やヒヤリハット(移動時、見学时、宿泊時、食事時)等に関しまとめ呈示する。	・危機管理対応を押さえた計画の作成ができたか。各学部の修学旅行に関する課題や今後の対応、ヒヤリハット等について明らかにし、修学旅行検討会及び各学部に周知することができたか。	B

## 校務分掌部②【情報部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目標 1	・児童生徒の社会性の育成に効果的なICT教材の活用法の啓発。	・具体的操作を交えた研修の実施。	・研修後のアンケートにおいて、5段階評価の満足度で平均4以上だったか。	A
重点 目標 2	・教職員の情報セキュリティに関する意識を高め、個人情報取扱いについて共通理解を図る。	・本校の情報セキュリティポリシーについて理解しやすくなるような伝達講習の実施。	・各学期1回以上の伝達講習を実施できたか。	A

### 校務分掌部③【学習指導部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点目標 1	・教員間や学部間で連携を図りながら、社会性の育成に向けた指導の充実を図る。	・キャリア教育発達段階内容表を活用し、キャリア教育の視点を意識して児童生徒の指導に当たるように取組を促す。	・学期末に、キャリア教育の視点を意識して指導にあたったかどうかのアンケートを実施し、12月の調査で指導ができた人が90%を超えたか。	A
重点目標 2	・部活動指導における危機意識を高め、安全管理を強化する。	・リスクマネジメント研修を行うとともに、部活動におけるヒヤリハット事例を共有できるようにする。	・指導に当たる教員同士で、ヒヤリハット事例の有無についての確認を毎回行う体制作りができたか。	A

### 校務分掌部④【交流教育部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点目標 1	・交流活動において、児童生徒が他者と関わりながら参加することができる。	・交流の目的・内容を事前に再度確認する。児童生徒が他者と関わりながら参加できるような手立てや支援について、相手と共通理解を図る。事後の反省を基に工夫改善を図る。	・手立てや支援により、他者と活動する時間を共有することができたか。	B
重点目標 2	・安全管理を意識した交流活動を計画・実施することができる。	・各活動に係る危機管理マニュアルやヒヤリハット事例に目を通すよう周知し、気になる箇所について意見を交換し合う。また、主担当は事前に避難経路の確認をする。	・次回に生かせるよう、各活動において安全管理について取り組んだことを反省用紙に具体的に記入することができたか。	B

## 校務分掌部⑤【生徒指導部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点目標 1	・児童生徒の社会的自立に向け、学業指導の充実に努める。(「明るい学校の取組」)	・「社会性の育成」の成果を踏まえつつ、「帰属意識の高い学級づくり」「一人一人の実態に配慮した授業づくり」に向けた取組の充実を図る。	・取組の成果を確認し、児童生徒の変容が見られた学級が80%以上だったか。これまでの成果を集約することができたか。	B
重点目標 2	・スクールバスの安全運行に係るマニュアルを見直すとともに、乗車中のヒヤリハット事例の収集に努める。	・マニュアルの見直しを行う。介護日報にヒヤリハット事例を記載してもらい、事例を収集し改善策を構築する。	・見直しができただか。改善策の構築を3日以内にできたか。	B

## 校務分掌部⑥【健康指導部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点目標 1	・生活習慣に関する情報を保護者に提供することができる。	・保健だよりや食育だよりを通して、健康や食に関する情報を提供する。	・内容を工夫し、保健だよりは毎月、食育だよりは年間4回以上発行することができたか。	B
重点目標 2	・学校生活における教職員の危険意識を高める。	・マニュアルの見直しを適宜行いながら、緊急時の対応(傷病時、おう吐物処理)や医療的ケア、食に関する研修を計画、実践、評価する。	・アンケートを実施、集計し、研修を通して理解を深められた人が90%を超えたか。	B

## 校務分掌部⑦【進路指導部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点目標1	・卒業後に向けて必要となる社会性を啓発し、職員や保護者の意識を高める。	・進路だより(4回)や保護者会等で社会性に関する内容を掲載したり、発表したりする。	・各学部に応じた社会性を設定し、必要な情報を提供できたか。	B
重点目標2	・就業体験学習や産業現場等における実習において安全に学習をできるよう、計画する。	・校外での学習においてのヒヤリハットの事例を共有し、共通の意識を持ち次回に生かす。	・事故なく実施することができたか。	B

## 校務分掌部⑧【渉外部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点目標1	・主体的、協調的なPTA活動を目指す。	・PTA活動(校内行事、各種講演会、PTA向けワークショップ等)後、アンケートを実施し、活動状況とともにPTAだよりで情報発信する。	・活動後のアンケート調査で、主催側(PTA本部役員、学級委員等)の意識がより主体的、協調的になったか。	B
重点目標2	・安全管理を強化したPTA行事の計画・実施。	・PTA奉仕作業、しらさぎ祭PTA模擬店等、危機管理マニュアルを基に安全管理を強化した計画を立てて実施する。また、PTA合同会議で、安全管理の強化を繰り返し伝えていく。	・PTA活動に携わる教職員やPTAの危機意識が高まったか。(アンケート実施)	B

## 校務分掌部⑨【地域支援部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目標 1	・行動障害等により、 他機関との連携が必要 な児童生徒への支援の 充実を努める。	・栃特サポートセンター 研修会において、医療と の連携に関わる研修会を 実施する。	・参加者の8割が医療と の適切な連携の在り方 について理解できたと答 えたか。	B
重点 目標 2	・家庭生活における 問題の未然防止に向け て、教職員の危機管理 意識を高める。 (生徒指導部と連携)	・地域支援部通信を通し て、虐待や親子関係等 についての情報の発信 や可能な範囲で事例の 紹介を行う。	・地域支援部通信を年 間4回以上発行するこ とができただか。	B
		・ハイリスク家庭につ いては、定期的に家庭 生活をチェックするシ ステムを作る。	・教員が児童生徒の 家庭生活をチェックす る項目を提示するこ とができただか。	B

校務分掌部⑩【舎務部】

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価
重点 目標 1	・集団生活の中で、適切なコミュニケーション方法の指導に努める。	・寄宿舎行事や活動について個々の方法で意思や考えを表出し、他者の意見を聞き話し合う場面を多く設ける。	・個々の表出方法を用いて意見を出し合うことができたか。  ・舎生自ら他舎生と協力して行事に参加することができたか。	B
重点 目標 2	・自分で自分の身を守る意識を高める。	・不審者の侵入を防ぐために、舎生と指導員で協力し、18時30分までに玄関や乾燥室、各所の窓の施錠をする。	・定刻までに施錠することができたか。	B
		・避難訓練を通して、自分の身を守る行動を確認、指導する。	・地震対応の避難訓練のとき、その場でダンゴムシのポーズを取ったり、机の下などに潜ったりして自分の身を守る行動を取ることができたか。	B